通信

あむーる

４月第１号

編集：　八幡成人（やわたしげと）

「チーム八ちゃん」ホームページ：https://teamhacchan.wordpress.com/

★一昨年、松江北高補習科を卒業した永田　脩（ながたしゅう）くんが、進学した東京大学・理科一類の大学レポートを送ってくれました。３年生（理数科）の時にも英語を教えていました。希望が叶わず、浪人してから、東大合格だけを夢見て、毎朝６時半過ぎには添削を持ってきて、指導をしていた生徒です。こういう謙虚さ・熱心さが大切です。
　こうやって卒業生に協力してもらって、全国の大学の生レポートをお届けします。♥♥♥

東京大学理科一類

永田（ながた）　脩（しゅう）

高校生の皆さん、こんにちは。**東京大学前期教養学部理科Ⅰ類２年生**の**永田　脩**と申します。東大について詳しく知りたいという方や、そうではない方にも、この大学の実態を広く知ってもらおうと、このレポートを書きました。読んでくださると嬉しいです。

◆大学生活について

東大生と聞くと様々な偏見を持たれがちと思いますが（主にメディアのせい）、実際はいい意味で普通の人が多く、常識的で丁度良くまじめという印象です。また、みんなある程度やりたいことが決まっていて、それに向けて努力をしています。

昨年はコロナの影響で、対面授業があまりありませんでしたが、東大にはクラス制度があり、クラスで遊びに行ったり、zoomを開いて雑談をしたりするなど、サークルが殆どないコロナ渦でも、友人関係を築きやすい環境づくりがなされています。実際に僕もクラスで友達を作ることができました（ただし、自分から関わりにいかないと厳しい）。また、クラスの中にはシケタイ（試験対策）という役職があり、各授業のまとめプリントの作成を行うなど、クラスメイト同士で助け合っています。このように、東大ではクラスというコミュニティが非常に重要と言えます。

入学してから気をつけてほしいのですが、東大には日本中から優秀な人が集まってくるので、その人達と比べると劣等感を抱いてしまうことが多いんです。しかし、それで気を病んでしまうのではなく、今の自分を受け入れ、その人達を目標として、より高みを目指してほしいと思います。大きく成長できるチャンスが大いにあるということです。

大学は人生の夏休みなど、という言説が世に出回っているようですが、これは誤解を招く表現です。どの大学でも日常的に課題が出される上、進級にはある程度成績を求められます。つまり、遊んでばかりいては、最終的に大きなツケを払うことになるのです。程よく遊びつつも、やるべきことはしましょう。高校とは違い、授業だけではカバーしきれない部分があるので、自発的に勉強しないと、あっという間に置いていかれます。

あと、文理関係なく大学に入っても数学は基礎学力として必要となるので、注意してください。大学の数学は高校の時と随分雰囲気が変わりますが、必要な知識なのできちんと学びましょう。

◆東大について

入学後の流れを以下のようにまとめました。なお、東大の学期はSセメスター（4～7月）とAセメスター（9～1月）で分かれています。簡単のため、前半・後半と表記します。

1. **入学時：全学生が教養学部に所属。さらに受験時に選択した科類別で分かれる。**
2. **1年前半～2年前半：前期教養課程。大きく分けて2種類の授業を受ける。科類別の必修科目と（ほぼ）全科類共通の総合科目がある。**
3. **2年夏休み：2年前半までの成績をもとに進学する学部を選択し、内定をもらう。**
4. **2年後半：前期課程の授業と、進学内定先の授業を受ける。この学期が終わるまでに前期課程の修了要件を満たさなければならない。**
5. **3年以降：各学部に分かれて専門的に学ぶ。**

「進振り」や教養課程に魅力を感じて入学される学生も多いと思います。具体的な魅力は以下の通りです。

- **様々な学問を志す学生と関わることができ、刺激を受けられる。**

- **大学レベルの教養を広く身につけ、視野が広がった状態で自分の専門を決められる。**
- **自分の専門と全く無関係の学問についても深く学ぶことができる。（総合科目が非常に充実している）**

しかし、「進振り」と教養課程について気をつけてほしいことがいくつかあります。それらを以下にまとめました。

- **キャップ制というものが存在し、履修できる授業数が限られている。1年の間は必修科目が多く、総合科目はあまり取れない。**
- **進振りは成績によって決められるため、人気の学部に行くには過酷な競争をくぐり抜けなくてはならない。（恐ろしいことに、競争相手は全員東大生です）**
- **課題が鬼のようにあるので、意外と好きなことに回せる時間が少ない。（泣）**

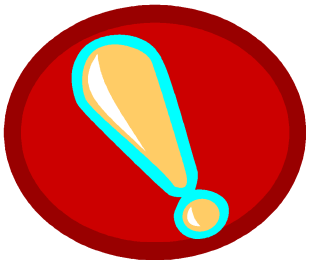
最後に、東大の充実した英語の授業（すべて必修）を紹介してこのレポートを終えたいと思います。

㊟東大の英語授業はどこよりもハード（八幡）

- **ALESS：研究の基礎たる英語論文の書き方について詳しく学び、一本書き上げる。**
- **FLOW：将来的に必要となる学術的な英語を正確に話すトレーニング。**
- **英語一列：精読を通し、滋味深い英文の世界を味わうとともに、英語を介した教養の獲得を図る。**
- **英語中級：非常に多彩でユニークなテーマの授業を通し、市民的エリートとしての知的豊かさを育む。**

重要　1.01と0.99

新年度になると、いつも私が話すことがあります。１．０１と０．９９の話です。実は、「１．０１」という数字には、こんな「志」が込められているんです。1.01×1.01×1.01×…..1.01を７０乗すると 2.00676…つまり2.0。もとの値の２倍を超えますね。一方、0.99×0.99×0.99×…..0.99を６９乗すると 0.49983…つまり0.5。もとの値の半分以下になってしまいます。1.01と0.99、 違いはわずか0.02。0.01＝1％　１％上積みするのか、１％下回るのか、それが大きな違いになるんです。たかが１％。時間にすると 一日２４時間の１％はたった１４．４分、つまり約１５分です。一日わずか１５分間の積み重ねが、結果的には大きな結果につながる。これがいわゆる**「１．０１の法則／０．９９の法則」**と呼ばれるものです。１年間３６５日では、下のような結果となります。これは学校の勉強だけでなく、あらゆる分野に共通することだろうと私は思っています。



$$1.01^{365} = 37.8$$
$$0.99^{365} = 0.03$$

★松江北高正村　修先生のご教示によれば、ｎ乗で計算すると１．０１は無限大に、０．９９は０になるそうです。

コツコツと努力すれば、やがてとてつもなく大きな力になります。ところが、逆にほんのチョットずつサボれば、やがて力はなくなっていきます。そのことを、上の数字ははっきりと示していますね。昨年は、３月２９日からすでに、「勝田ケ丘志学館」では授業開きをして、最初にこういった姿勢の大切さをお話しして、一期生の先輩たちの努力を讃えています。彼らは本当によく頑張りました。毎日、朝の８時半から夜の７時まで。一ヶ月に休めるのは１日だけ。ゴールデン連休も、夏休みも、正月休みも返上で、勉強に励みました。他の予備校や補習科では考えられないくらいのハードスケジュール（これは英語？）です。「センター試験」が終わってからは、ほぼ毎日、私は傷む左足を引きずりながら（整形外科の注射でごまかしながら）米子に通って、午後７時まで英語を徹底的に鍛え上げました。その結果、ほぼ全員が第一志望大学に合格を勝ち取っています。ほんのチョットしたことの積み重ねが、とてつもなく大きな力になることを、実際にこの目で学ばせてもらいました。私は一昨年は、一週間に月・金の二回米子に通っていましたが、昨年は水曜日を加えて週に３回通うことになりました。この日は、午前中に松江北高の授業を終えてから電車で移動します。結構ハードな日程です。「夢」を追いかける若者たちのお手伝いをしようと思っています。

尊敬するパナソニック創業主・**松下幸之助**さんの**「成功の秘訣は成功するまでやること」**という言葉も紹介しておきます。今年一年間、そんな気持ちで勉強に励んでもらいたいと願っています。頑張れ！！♥♥♥